

改訂日：2021年04月14日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：スーパーチェック現像剤 UD-T

製品番号 (SDS NO): CD024-6

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：マークテック株式会社 成田工場

住所：千葉県成田市吉岡681-4

担当部署：品質保証部

電話番号：0476-49-3166

FAX：0476-49-3181

緊急連絡先電話：担当部門に同じ

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体:区分 2

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性:区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 2

発がん性:区分 1A

生殖毒性:区分 1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 1

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 2

誤えん有害性:区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 1

水生環境有害性 長期(慢性):区分 1

(注)記載なきGHS分類区分:該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語:危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

皮膚刺激

強い眼刺激

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

適切な個人用保護具を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合：指定された消火剤を使用すること。

漏出物を回収すること。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：
混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化管(PRTR)法
エチルアルコール	70 - 80	64-17-5	2-202	-
ヘプタン	10 - 20	142-82-5	2-7	-
無機粉末 A	1 - 10	登録済	登録済	-
無機粉末 B	1 - 10	登録済	登録済	-
界面活性剤	0.1 - 2	登録済	登録済	-
N-メチル-2-ピロリドン	0.1 - 2	872-50-4	5-113	-

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

エチルアルコール, ヘプタン, N-メチル-2-ピロリドン

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エチルアルコール, ヘプタン, N-メチル-2-ピロリドン

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼をこすらせてはならない。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 関係者以外は近づけない。
- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。
- こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
- 着火源を取除くとともに換気を行う。

環境に対する注意事項

- 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 掃き集めて、容器に回収する。
- 乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。

二次災害の防止策

- 漏出物を回収すること。
- 全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 容器を接地しアースをとること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。

(局所排気、全体換気)

- 排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。
- 蒸気は、めまいや窒息を引き起こすおそれがある。

安全取扱注意事項

- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避データなし

衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
- 錆の発生しやすいところには置かないこと。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(ヘプタン)

日本産衛学会(1988) 200ppm; 820mg/m³

(N-メチル-2-ピロリドン)

日本産衛学会(2002) 1ppm; 4mg/m³ (皮)

(エチルアルコール)

ACGIH(2008) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

(ヘプタン)

ACGIH(1979) TWA: 400ppm;

STEL: 500ppm (中枢神経系障害; 上気道刺激)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：白色懸濁

臭い：アルコール臭

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点：78°C

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点：-4°C

自然発火点：204°C

分解温度データなし

pHデータなし

動粘性率：動粘性率が20.5mm²/s 以下

溶解度：

水に対する溶解度：溶ける

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

密度及び/又は相対密度：0.81g/cm³(15°C)

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

蒸気は引火して爆発するおそれがある。

避けるべき条件

避けるべき条件データなし
混触危険物質
強酸、強塩基、強酸化性物質
危険有害な分解生成物
炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]
(ヘプタン)

mouse LD50=5000mg/kg (IUCLID, 2000)
(N-メチル-2-ピロリドン)

rat LD50=3500mg/kg (DFGOT vol.10, 1998)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]
(ヘプタン)

rabbit LD50=3000mg/kg (IUCLID, 2000)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]
(ヘプタン)

vapor: rat LC50=25132ppm/4hr (環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート, 2008)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]
(ヘプタン)

ヒト 皮膚炎 (DFGOT vol.11, 1998)
(N-メチル-2-ピロリドン)

ヒト 軽度から中等度の一過性刺激 (SIDS, 2009)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998 et al)
(ヘプタン)

ヒト 刺激性 (環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート, 2008)
(無機粉末 B)

ラビット 回復性の軽度の結膜刺激 (SIDS, 2006)
(N-メチル-2-ピロリドン)

ラビット 中等度から強度の刺激性 (DFGOT vol.10, 1998)

呼吸器感受性又は皮膚感受性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)

cat.1A; (IARC, 2010)

(エチルアルコール)

IARC-Gr.1: ヒトに対して発がん性がある

(エチルアルコール)

ACGIH-A3(2008): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

エタノールはACGIHでA3に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール

飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分1Aに分類する。

生殖毒性

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)
cat. 1A; human : PATTY 6th, 2012
(N-メチル-2-ピロリドン)
cat. 1B; SIDS, 2009

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)
気道刺激性 (PATTY 6th, 2012)
(ヘプタン)
気道刺激性 (SIDS, 2013)
(無機粉末 B)
気道刺激性 (SIDS, 2006)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)
麻酔作用 (PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005)
(ヘプタン)
麻酔作用 (SIDS, 2013)
(N-メチル-2-ピロリドン)
麻酔作用 (CICAD 35, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)
肝臓 (DFGOT vol.12, 1999)
(ヘプタン)
神経系 (SIDS, 2013)

[区分2]

[日本公表根拠データ]
(エチルアルコール)
中枢神経系 (HSDB, Access on Jun. 2013)
(N-メチル-2-ピロリドン)
神経系、肺、肝臓、骨髄 (CICAD 35, 2001)

誤えん有害性

[区分1]

[日本公表根拠データ]
(ヘプタン)
cat. 1; hydrocarbon, 化学性肺炎 (HSDB, 2014)

その他情報

この調査製品自体のデータは得られていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(ヘプタン)

甲殻類 (ミシッドシュリンプ) LC50=0.1mg/L/96hr (SIDS, 2013)

(エチルアルコール)

藻類 (クロレラ) EC50=1000mg/L/96hr (SIDS, 2005)

(N-メチル-2-ピロリドン)

藻類 (セネデスマス) EC50 >500mg/L/72hr (SIDS, 2009)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(エチルアルコール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6mg/L/10days (SIDS, 2005)

水溶解度

(ヘプタン)

溶けない (ICSC, 1997)

(エチルアルコール)

混和する (ICSC, 2000)

(N-メチル-2-ピロリドン)

100 g/100 ml (SRC, 2005)

残留性・分解性

(ヘプタン)

急速分解性あり (BODによる分解度 : 101% (既存点検, 1996))

(エチルアルコール)

急速分解性あり (BODによる分解度 : 89% (既存点検, 1993))

(N-メチル-2-ピロリドン)

急速分解性あり (BOD(NO2)分解度=73%/28 days; BOD(NH3)分解度=94%/28 days; TOC分解度=96%/28 days; GC分解度=100%/28 days (通産省公報, 1989))

生体蓄積性

(ヘプタン)

log Pow=4.66 (ICSC, 1997)

(エチルアルコール)

log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)

(N-メチル-2-ピロリドン)

log Pow=-0.38 (ICSC, 2014)

土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

その他情報

この調合製品自体のデータは得られていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 国連番号、品名、国連分類、容器等級、環境有害性
本製品の英文SDSを参照。

海上規制情報

IMOの規定に従う。

航空規制情報

- 国内規制
- ICAO/IATAの規定に従う。
 - 陸上規制情報
 - 消防法、道路法の規定に従う。
 - 海上規制情報
 - 船舶安全法の規定に従う。
 - 航空規制情報
 - 航空法の規定に従う。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

エチルアルコール; ヘプタン; N-メチル-2-ピロリドン

名称通知危険/有害物

エチルアルコール; ヘプタン; N-メチル-2-ピロリドン

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物 (-30°C ≤ 引火点 < 0°C)

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第1石油類水溶性液体 危険等級 II(指定数量 400L)

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (7th revised edition, 2017), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN

IATA 航空危険物規則書 第61版 (2020年)

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (Table 3 ECNO6182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2020 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2019 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

この情報は、私どもの知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、当社は内容の正確性又は完全性について、何も責任を取ることはできません。全ての材料を適当に使用する最終的決定の責任はユーザーのみのものです。全ての材料には、未知の危険性があり、取扱いに注意が必要です。ここには特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないことは保証できません。本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実用を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和元年度(2019年度))です。